

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	13910.16	-49.89
N Y ダウ	16,026.75	-143.47
D A X (独)	9,315.29	-139.25
FTSE100 (英)	6,561.70	-80.27
CAC40 (仏)	4,365.86	-47.63

<外国為替>※

ドル円	101.62 円	-0.01 円
ユーロドル	1.3841 ドル	-0.00 ドル

<長期金利>※

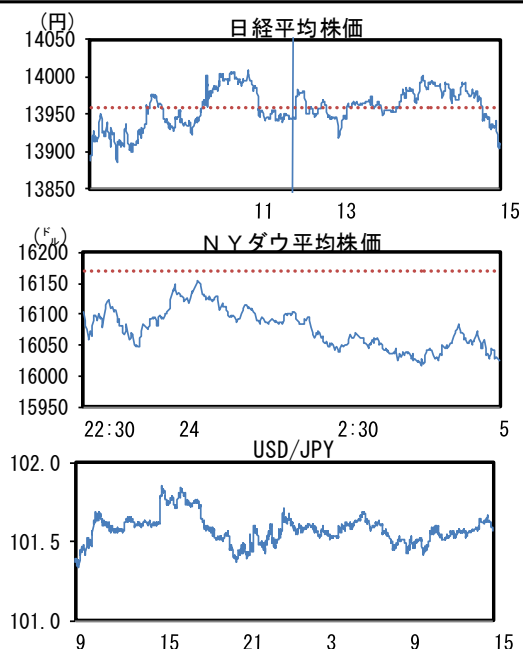
日本	0.606 %	0.00 %
米国	2.625 %	-0.02 %
英国	2.611 %	-0.01 %
ドイツ	1.504 %	-0.02 %
フランス	2.010 %	-0.01 %
イタリア	3.210 %	0.04 %
スペイン	3.188 %	0.02 %

<商品>

N Y 原油	103.74 ドル	0.34 ドル
N Y 金	1318.70 ドル	-1.40 ドル

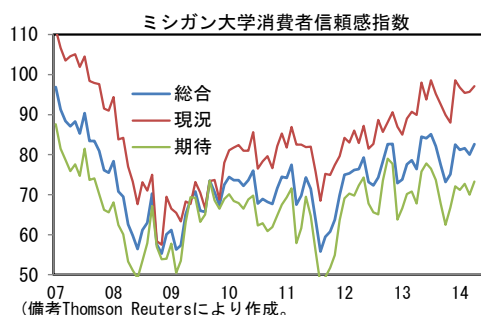
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

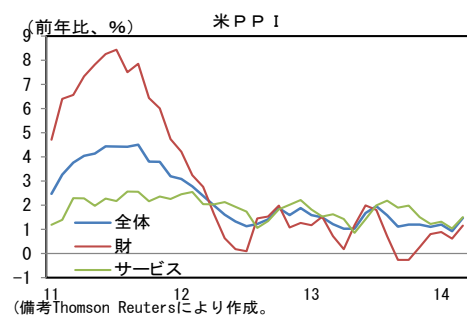


【海外株式市場・経済指標他】 ～米PPI：価格決定力の回復か～

- ・ N Y ダウ平均株価は前日比▲143.47ドルの16026.75ドルで取引終了。
- ・ 4月ミシガン大学消費者信頼感指数は82.6と前月(80.0)から改善、市場予想(81.0)を上回った。現況(95.7→97.1)は寒波襲来前の12月水準(98.6)に接近し、期待(70.0→73.3)は昨年8月以来の高水準に到達。既往の資産効果や雇用・所得環境の改善を背景とした緩やかな持ち直しが継続している。
- ・ 3月PPIは前年比+1.4%と市場予想(+1.1%)を大幅に上回り前月(+0.9%)から加速。前月比では全体が+0.5%、コアが+0.6%と大きく伸びた。類別では財価格が前月比横ばいもサービス価格が前月比+0.7%と強い(サービス価格前年比+1.5%)。サービス価格の反発からは、企業の価格決定力が回復している可能性が示唆される。



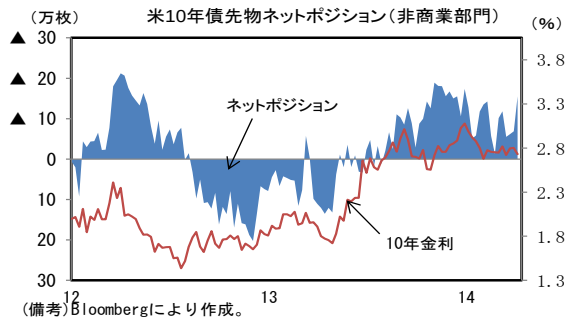
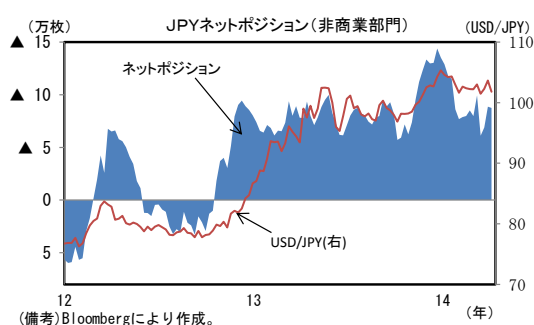
(備考Thomson Reutersにより作成。)



(備考Thomson Reutersにより作成。)

【外国為替相場・債券市場】～米10年債：ショート積み上がる～

- ・前日のG10通貨は区々の展開。USD/JPYは、米国時間早朝までは欧州株下落や米金融大手の決算を嫌気され下落基調にあったが、米指標が予想を上振れるとJPY売りが優勢となった。他方、EUR/USDは1.39近傍で一進一退。その他通貨も動意に乏しく、新興国通貨も区々。14日日本時間でもUSD/JPYは膠着状態が続き101半ばで一進一退となっている。
- ・米10年金利は▲2.3bpの2.625%。米金融大手の決算に金利低下で反応。米株下落の影響もあり、米指標の予想上振れに対する反応も限定的。欧州債市場はコア国堅調、GIIPS軟調。GIIPS10年金利の対独スプレッドは週間ベースで4週ぶりにワイドニング。
- ・CFTCデータ（4/8）によるとJPYネットショートポジションは微減（8.87万枚→8.75万枚）。EURのネットロングポジションは5週ぶりに縮小（3.32万枚→2.33万枚）。他方、米10年債のネットショートポジションはこの間の金利低下に反して急拡大した（6.88万枚→15.5万枚）。



【国内株式市場・経済指標他】～踏みとどまる～

- ・日経平均株価は前日比▲49.89円の13910.16円で取引終了。
- ・前週末の米株が大幅下落となったにも拘らず、週明けの日本株は小幅下落に踏みとどまった。騰落レシオが昨年8月以来となる80割れを記録したほか、TOPIXのPERが13倍割れになるなど、需給・バリュエーションの両面で押し目買いを正当化する材料が揃ったことが背景とみられる。

【注目点】～やっぱり下落シナリオは描きづらい～

- ・先週、米株安・USD/JPY下落が進行するなか、日経平均は1100円下落した。足もとのリスクオフは、3月雇用統計が市場予想に届かなかったことで強気ポジションが巻き戻されたものと考えられるが、日本株を更に売り込むには米指標が足踏みし、USD/JPY上昇シナリオが消失することを確認する必要がある。しかし、米経済の悲観論を語るのは難しい。たとえば、企業が雇用・設備投資計画を練る上で重要となる設備稼働率は住宅バブル期の水準を僅かに下回る水準まで回復している。ここからは、人材や生産設備の不足による機会損失を防ぐため、今後、企業が雇用・設備投資を積極化させるとのシナリオが無理なく描ける。また、3月自動車販売台数の急増（前月比+6.9%）に鑑みると寒波が過ぎ去った後、消費は力強さを取り戻した模様だ。企業がリーマンショック後に調整した生産能力（含む雇用）の回復を急ぐなか、家計もバランスシート調整を完了させ、新たな消費拡大路線を歩み出している。米経済が好循環を続けている間、日本株、USD/JPY下落シナリオを描くことは難しい。日本株・USD/JPY共に押し目の好機とみる。

